SOMPOリスクマネジメント

SORAレジリエンスWEB説明会

熱中症アラート機能を追加

SOMPOリスクマネジメントは7月3日にオンラインで、同社が提供する「SORAレジリエンス」の機能追加に伴う説明会を行った。「SORAレジリエンス」は損保ジャパンとSOMPOリスクマネジメント、㈱ウェザーニューズの協働により2023年に販売を開始したリスク情報管理を支援するサービスで、主に自然災害情報を中心とした国内・国外のリスク情報を提供するもの。多くの企業が参加した今回の説明会では、改正労働安全衛生規則の施行にともなって新たに追加された熱中症アラート機能を含むサービスの詳細について、同社サービス開発部リスクプラットフォームグループリーダーの犬飼篤氏が説明した。

冒頭、犬飼氏はSORAレジリエンスの概要に関して、近年の気候変動に伴って企業が自然災害から影響を受けることは免れないこと、その対応には迅速な情報の入手と活用が必要なことなどを述べた。損保ジャパン、SOMPOリスクマネジメント、㈱ウェザーニューズの3社は各社のデータ・知見を掛け合わせたSORAレジリエンスを開発し、「素早く」「簡単に」「適切な」情報を届けて企業の減災・防災に貢献していることも説明した。

次に、SORAレジリエンスのサービスのポイントとして①多様なリスク情報の把握をリアルタイムに簡単に行うことができること②最大72時間先までの予測から「いつ」「どの拠点」に対応が必要かを検討することができること③機会の少ない災害対応においてもシステム操作を円滑に行うことができることーの三つを挙げ、多様な情報の洗い出しによりスピーディな判断と指示を可能にした、使いやすいインターフェースが特長の同製品の利点を強調した。

犬飼氏

改正労働安全衛生規則の定義に対応

続いて、SORAレジリエンスに追加された熱中症対策機能を紹介した。本年6月1日には改正労働安全衛生規則が施行され、熱中症対策の対象となる作業が「WBGT（暑さ指数）28以上または気温31度以上の環境下で連続1時間以上または1日4時間を超えて実施が見込まれる作業」と定義されていることから、この定義をターゲットにして、SORAレジリエンスではWBGTの予測および警戒情報を確認できるようになったとし、「管理者はSORAレジリエンスで得られる情報を俯瞰的に捉えてリスク管理をしてほしい」と参加者に呼び掛けた。

その後、実際の画面操作によりSORAレジリエンスの操作性を説明した。架空の企業の拠点を反映したリスクMAPで、台風が発生した場合の対応や雨雲レーダーによる降水量の予測、河川の水位情報の確認などを紹介した他、拠点の情報を「ラベル」機能により整理して収集しやすくする「リスク一覧」の画面や、「災害データ」画面に新たに追加されたアラート機能などを披露。さらに、リスクMAPでの世界的なリスクの確認の仕方も詳述した。画面操作の最後には、リスク評価のできる「自然災害リスクアセスメント」機能や、拠点管理の機能も紹介した。

さらに同氏はSORAレジリエンス活用事例も紹介し、導入により自社の拠点のみならず協力会社や納入先の気象情報等も効率的に入手・活用できた企業の事例や、休業損失を回避できた事例などについて述べた。

説明会の最後には質疑応答の時間が設けられ、犬飼氏が参加者からの質問に答えた。SORAレジリエンスサービスの目指すところを問われた同氏は、「リスクマネジメント担当者の災害時における負担を減らし、家族や自分のために使う時間を増やすことが目標。そんなサービスにしていきたい」と展望を語った。